

兵高教組

2023年6月23日

調査情報 3号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL: 078-341-6745 FAX: 078-351-3185

URL: http://www.hyogo-kokyoso.com

mail: honbu@hyogo-kokyoso.com

教職員未配置、県下で200名超

県教委は責任を持って対策示せ

これまでの対策では限界！子どもたちの学ぶ権利を守れ！！

高教組は6月13日に兵庫教職員組合（兵庫県の小中学校の組合）とともに、「教職員の未配置」の調査結果についての記者発表を行いました。記者発表会場には、朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・神戸新聞・しんぶん赤旗・NHK等7社が参加し、同日夜にはNHKの兵庫ニュース845で報道され、翌日以降、様々な新聞で記者発表の調査結果が報じられました。

5月1日(月)時点での教職員の未配置調査では、県下の公立高校・特別支援学校（神戸市立の学校をぞく）で110校から回答があり、25校で33名の未配置が確認できました。特に特別支援学校の欠員が大きく、9校で16名（介助員・調理員・寄宿舎教員等も含む）もの未配置が広がっている状況です。小中でも40市町中38市町から回答を受け、168人もの未配置状況が明らかになりました。

その後、代替教員が見つかり充足した学校もありますが、新たに病休や産育休での休職者もあり、現場は非常に厳しい状況が広がっています。

未配置が広がる現場では子どもたちの学ぶ権利が保障されず、教職員が疲弊していく実態が見て取れます。未配置解消は県の責任で即刻解消させるべき課題です。高教組ではこの問題の現状を広く県民に知らせながら、未配置解消に向けたとりくみをすすめていきます。

1. 小・中・高・特支の未配置状況

それぞれの5月1日時点での未配置状況の調査結果は以下の通りです。

①小中学校の状況

・40市町中38市町から回答

	小学校	中学校	合計
常勤	54人	46人	100人
非常勤	28人	40人	68人
合計	82人	86人	168人

②高校・特別支援学校の状況

・公立高校、特別支援学校110校(※1)から回答

	高校	特別支援	合計
未配置	17人	16人(※2)	33人

※1 職場の6割程度からの回答なので実態数としてはより深刻な状況となっていると考えられます。

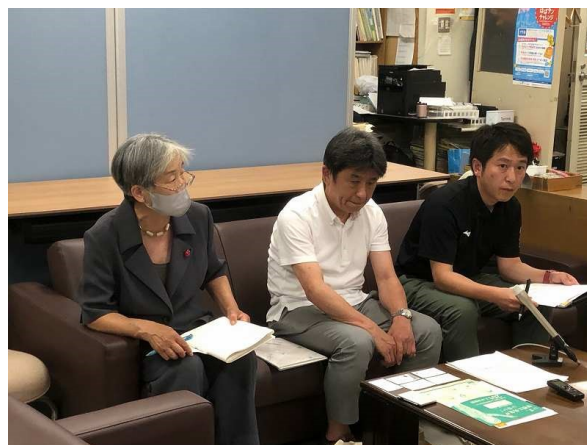
※2 うち9名が介助員、調理員、寄宿舎指導員、生活学習支援員

2. 県教委発表の数字

※県教委発表の人数は、「非常勤講師」「再任用教員（短時間）」をフルタイム勤務に換算（例えば非常勤16時間+再任用3日勤務で1人とカウントなど）しているため、**現場の実態に即した数字とは乖離**があります。

県教委が6月12日に発表した5月1日時点での未配置状況の調査結果は次の通りです。

	2023年度	2022年度	前年度比
小学校	73人	46人	+27
中学校	61人	46人	+15
高校	18人	16人	+2
特別支援	12人	6人	+6
合計	164人	86人	+50



6月13日(火)に行われた未配置問題記者発表の様子。
左から「教職員未配置を考える兵庫県民の会」の中村会長、
兵庫教組永峰書記長、高教組赤松書記長

現場で困っているあなたの声が強くなります。

3. 教職員未配置の原因について

県教委は未配置の原因として

- ①産育休取得者の増加
- ②特支学級の見込み以上の増加などに伴う臨時講師等の需要増
- ③近年の大量退職に伴う大量採用による臨時講師等の登録者の減少

などを挙げています。しかしながら、そもそもは10年以上にわたって実施されてきた教員免許更新制(22年度廃止)による免許取得敬遠や、近年の病休者の増加も大きな要因であり、大本の原因である長時間過密労働の実態等が明らかになったことによる教員志望者の減少を直視しない限り、現在の未配置状況の改善は難しいのではないのでしょうか。

6月13日の神戸新聞によると担当者の言葉として「教員不足解消に向け(中略)志望者を増やす取り組みにも力を入れる」とする一方で「ただ、急に採用を増やすと年齢構成がいびつになるため、平準化に考慮しつつ教員確保を目指す」とあります。「志望者を増やしながらか急に採用を増やさない」ような中途半端なとりくみで、果たして教職に魅力を感じる志望者が増えるのでしょうか。また、教員採用試験は新卒一括採用ではなく、色々な経歴を持った様々な年齢層の方が受験するため、年齢構成が劇的にいびつになるとは到底考えられません。

4. 現場の声——しわ寄せは子どもと教員に

- ・「学年付きの先生が担任代理。教科は見つかるまで自習を指示している状態」
- ・「教諭3人で常勤講師一人分を被っている。教科内で持ち合い」
- ・「教科の時間講師が配置されたが、分掌は穴が空いたままだ」
- ・「教員が交代で朝7時過ぎに出勤してスクールバスに添乗することになった」
- ・「多部制や全定のある学校は、自分の勤務時間外の時間に余分に時間講師で働いている教員が多数おり、若手にそれが押しつけられている」

など、多くの悲鳴にも似た声が上がっています。

教職員の欠員によって本来保障されるべき子どもの学習権が侵害されることはあってはならないことです。少人数学習によるきめ細かな指導ができない、自習の時間が増えて学習の進度が遅れる、教科外の先生が教壇に立たざるを得ない、など子どもの学習権を取り巻く問題は「人が見つからないから仕方が無い」では済まされない問題です。

また欠員による教職員の一層の多忙化も深刻です。穴が空いた分を教科担当者が数人で埋めるとしても、本来の平均持ちコマ数を大幅に超え、授業時間数増

だけではなく、そのための教材研究の時間の確保が必要になるなど、他の業務を圧迫し長時間過密労働はますます酷いものとなるでしょう。また、本来入るべき校務分掌にも穴が空き、それを各分掌内でカバーすることはかなり大変なことです。これでは「教育の質」も維持できません。

5. 未配置問題の解決は採用増と労働条件の改善以外にない!

未配置の責任は教育条件整備を司る文科省・県教育委員会にあります。

昨年、兵庫県では全国に先駆けて「教員未配置が多忙化の原因」との人事委員会勧告が出されました。産育休代替に関わる先読み加配の国並みの拡充や様々な対策が講じられましたが、県教委調査でも明らかのように、事態はむしろ悪化しています。

過酷な労働環境が社会的に認知され、残業代も出ない「ブラック公務員」ぶりが明らかになった今、SNSの活用や講師登録の呼びかけ、大学だけではなく県立学校生徒向けの進路ガイダンス等の実施など、原因を直視しない表面的なやりがいや魅力をアピールしたところで、県下200名を超える未配置状況がただちに解消されるはずはないでしょう。

超勤解消に向けた「教職員定数改善」と「少人数学級の拡充」を同時にすすめること、「教職員の労働環境や賃金権利などの待遇の改善」を今すぐにでも行う必要があります。まずは臨時講師の採用拡大＝正規化がなにより必要です。神戸市では昨年、前年度の1.8倍を採用し、未配置問題に一定の効果が表れています。高校・特別支援学校でも採用を30人程度増やせばかなりの改善が見込まれるはずです。

また、将来的にはそれと並行して教員定数は40人を標準に割り当てられていますが、早急にまずは35人に改善すべきです。教職員の数が増えることによって持ち時間数の軽減、業務負担の改善に繋がります。同時にそれこそが教職の魅力ややりがいの改善に繋がるはずです。

高教組では、これから広く県民にこの教職員未配置問題についてアピールし「兵庫県における教職員の未配置解消を求める要請署名」に全県で5000筆を目標にとりくみ、「県教委の責任で未配置解消を」と迫っていきます。是非ご協力ください。

【～未配置を考える教育フォーラムのご案内～】

「いま、学校に先生がいない

～教職員未配置の深刻な実態～」

日時：7月15日(土)13:30～16:00

場所：兵庫県学校厚生会館2階大会議室

※ 参加無料。どなたでもご参加いただけます。

あなたも高教組へ、ぜひ!